

安楽寺だより

第21号

紙面内容

- 2面 日本国憲法を考える
- 3面 東本願寺報恩講に参拝
- 4面 仏教豆知識(日本仏教④)

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇
 電話 〇五二(八四一)二六〇六

来年(平成28年) 東別院で御遠忌法要が勤まります



四月二十一日～二十四日

四月二十六日～五月一日

真宗大谷派名古屋別院

来年(平成二十八年)四月二十二日から五月一日まで、真宗大谷派名古屋別院(東別院)に於いて、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要がお勤めされます。東別院は、江戸時代中期に本願寺第十六代一如上人により古渡城跡地に創建されました。

以来三百数十年「御坊さま」と親しまれ、布教と聞法の道場の寺院として発展してまいりました。現在では春秋のお彼岸、お盆、報恩講、お正月、縁日(十二日・二十八日)など参詣の皆様で賑わつ

ともに生きるーいのちのつながりー

ております。

私たちの生きる現代日本では、物が豊かになり、長寿社会になりました。しかし、家族のつながりが薄れ、老後の不安が増し、先行きに希望が持てない人々の社会が拡大しています。

お釈迦さまは、悩み苦しむ人々に、人生を生きるための真実の教えを説かれました。

親鸞聖人は、みずからの九十年のご生涯を通して、お念仏の教えにふれ、この世に生まれた意義と生きる喜びを見いだして、人生を歩んでほしいと語られました。来年厳修される東別院の御遠忌法要に向けての取り組みが今年春から始まります。

ご門徒の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本国憲法を考える

日本国憲法は、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義の三大原理であると学生だった頃に学びました。しかし社会生活の中で、憲法を意識することはあまりありませんでした。

しかし昨年来、憲法に関係するニュースが度々されています。憲法二十一条の「言論・表現の自由」など、幾つかの国民の権利を制限する特定秘密保護法案の成立施行によって、自由にものが言えない社会が来るのではないかと。また、「戦争及び武力行使の放棄」をうたった憲法九条の憲法解釈を変え、集団的自衛権の行使容認する安倍内閣の閣議決定など、改めて憲法と我が身の生き方

の問題として考えねばならない時代を迎えています。

日本国憲法は立憲主義憲法といわれます。近代ではどの国も国家を成り立たせる為のルールである憲法を持っています。日本国憲法は「思想・良心・信教の自由」など幾つかの人権保障、立法・司法・行政の三権分立をうたっています。憲法とは国がしっかりと機能していくための最終的な根拠を定めています。憲法は「最高法規」であって、その「条規・条文に反する法律・命令などはその効力を有しない」（憲法九十八条）と明文化されています。国民は憲法

によって守られる存在であって憲法によって縛られる存在ではないと言えます。

しかし戦後七十年が経ち、憲法は現代に合わなくなつたという主義・主張が政治家の中に拡がってきました。憲法改正論、国家の安全保障などは生活には影響がないと考えがちですが、近い将来私たちの日常生活に必ず影響があると思わずにはいられません。

真宗大谷派は、先の戦時下で強権的政治の圧力によって「国策」の名のもとに、戦争に全面的に協力し、多数の若者を戦地に送りました。その痛切な反省をし、若者を戦争には送らせない、戦争への様々な動きに反対する信念を持って政治の動きを注視しなければと考えます。

中日新聞一月十四日夕刊と一月三十一日朝刊に、安楽寺会館のAED設置の記事が掲載されました。（以下夕刊全文を掲載します）

九万個のうち、この一つだけというのだから、かなり珍しい光景だ。企業や飲食店が立ち並ぶ名古屋市瑞穂区の県道沿い。民間の斎場「安楽寺会館」の外壁にいつでも誰でも自由に使つていい自動体外式除細動機（AED）を収めた特注の箱が鎮座している。

「九万分の一」は機械をリースした大手警備会社の言。全国の企業や学校、官公庁に同

社が貸し出すAEDは約九万個あるが、ほぼ全て屋内に「秘蔵」されている。盗難を恐れる人が多く公道に向け堂々と公開する例はないらしい。

会館を運営する安楽寺会館が昨年末に踏み切った。吉田昌史副住職は「見返りを求めず、分け隔てなく地域の役に立つのが本来の寺の姿」。月二万円弱の持ち出しに、静かにほほ笑みながら耐えている。善意を盗む者などいないと、信じる。

中日新聞社会部記者・中野祐紀

会館にAEDを設置しました



安楽寺佛佳会ご入会のお礼

昨年十一月の報恩講法要の折、多数のご門徒の皆様にご入会のお申し込みをいただきまして、厚くお礼申し上げます。一月末日までに二〇〇名近くの申し込みがございました。

佛佳会は、ご門徒の皆様のご親睦と、安楽寺護持を目的として再発足して二十年が経過しました。お納めいただきました会費は、安楽寺本堂などの修理・保全のほか、安楽寺会館借入金返済や会館の修理・備品充実などに大切に利用させていただきます。

毎年二月に会員の皆様六〇名以上のご参加をいただき総会を開催し、親睦の催し物を行なっております。また、親睦旅行を開催しております。

ご協力いただけるご門徒の皆様は、引き続き受付を致しておりますので、ご入会いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

責任役員・総代・世話方一同



会員章(肩衣)をお持ちでない方はお申し出ください

本山報恩講に参拝

昨年十一月二十四日、安楽寺ご門徒の皆様三十三名と共に、本山東本願寺報恩講に参拝いたしました。当日は晩秋の晴天で、御影堂前の白州で記念写真を撮り、そして堂内お勤めされる法要に参拝しました。

参拝後、今年で最後になった阿弥陀堂素屋根を間近で見学し、その大きさと素晴らしさに感動の声がありました。その後、本山から徒歩五分ほどにある涉成園(枳殻邸)で、晩秋の風情漂う庭園でしばし休憩、昼食を済ませた後、紅葉見学で混み合う南禅寺を拝観しました。

今回の団体参拝に参加されたご門徒の皆様

に、改めてお礼申し上げますとともに今後ともご協力いただきますよう、心よりお願い申し上げます。



本山御影堂前の白州にて

帰敬式を行いました



昨年の報恩講には、大勢のご門徒の皆様にご参詣をいただきありがとうございました。

毎年十二日の午後に帰敬式を執行しております。今回は九名の皆様に受式していただきました。

全員で「三帰依文」(仏・法・僧の三宝に帰依するお言葉)を唱和したのち、剃刀の式を行い、そしてお一人づつに法名を伝達。受式者を代表して藤島さんから「誓いのことば」をいただき、全員で正信偈をお勤めして式を終えました。

仏教豆知識

第二十一回



日本の仏教

歴史 その④

鎌倉時代に入ると、平安時代末期に起こった源氏と平家の争いに象徴される動乱がいつそう激しくなり、庶民の生活は苦しみが増しました。そして仏教の世界にも変革の波が押し寄せ、国家や貴族のために儀式・研究をする「鎮護国家」の仏教から、次第に民衆救済のための仏教へ推移していきました。

主として比叡山で学んだ僧侶によって仏教の民衆化が図られ、新しい宗派が誕生しました。これらの宗派は、それまでの旧仏教と違い、難しい理論や厳しい修行ではなく、在家の信者が生活の合間に実践できるような易しい教えが説かれました。

この中には、「南無妙法蓮華経」と唱えることで救われるという日蓮宗、「南無阿彌陀仏」と一心に称えて救われるという浄土宗、そして、「みずから功德を積み、自分の力で極楽往生をしようとする善人は、阿彌陀仏を

頼りとするところが欠けています。自分の中に何ら善を見いだせず、ひたすら阿彌陀仏の他力を頼む悪人のほうが、救われるのにふさわしい」『歎異抄』と悪人正機の教えを説かれた親鸞聖人の浄土真宗などが主なものです。

これらは、既存の旧仏教から弾劾されましたが、旧仏教の変革もうながしました。その後、民衆の中に浸透し一般化すると、弾圧も次第に沈静化していきました。

鎌倉時代は、武士が貴族から権力を奪い、着々と力をつけていた時代でもありました。この時代には、臨済宗と曹洞宗という二つの禅宗が、相次いで中国からもたらされました。力をつけつつあった武士に好まれたことから、鎌倉などに多くの禅寺が建てられ、大いに栄えました。



親鸞聖人熊皮の御影

東日本大震災から、まもなく四年を迎えます。復興の歩みが徐々に進んでいるように報道されています。しかし、復興事業は資材の高騰や人材不足などによって、遅々として進まない事例もあるようです。

また、東京電力福島原子力発電所の放射能汚染によって帰宅困難地域や居住制限区域から各地に避難され、不自由な生活をされる人たちのために、国の責任で生活再建の賠償・補償することが何よりも大切です。それがなければ、「除染し放射線量が下がったから、郷里に帰りなさい」と勧めても、若者を中心に帰還する人たちが増えない現状を変えれないと思います。